

令和元年度 岡山県立笠岡商業高等学校 学校評価書

(A: 目標を上回った B: ほぼ目標どおり C: 目標を下回った)

学校経営目標	担当	具体的計画	今年度の達成基準	自己評価(中間) 達成状況	評価	自己評価(最終) 達成状況	評価	評価
	教務	<ul style="list-style-type: none"> 授業を通して、生徒に5つの力を意識して習得できるよう活動させる。 生徒に目標設定と振り返りの習慣を身に付けさせ、自主的な行動がとれるようにする。 家庭学習を充実させるために、宿題や課題の内容を工夫して取り組ませる。 図書館を利用した生徒の主体的な学習を増やし、生徒の学習活動を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価(生徒用)「内容が分かりやすく、楽しい授業が多い」が90%(昨年度85.9%)、(教職員)「授業改善に向けてスキル向上に努めている」が95%(昨年度89.3%) 生徒アンケート「目標設定と振り返りの習慣ができています」が75%(昨年度60%) 家庭学習時間の平均時間が50分(昨年度42.4分) 図書館を利用した学習が3教科以上でなされる。(昨年度3教科) 	<ul style="list-style-type: none"> 授業公開月間として、6月と11月を設定し、6月には「授業5を意識した授業」、11月には「主体的な学びを意識した授業」とそれぞれテーマを掲げて取り組んだ。 各学期に何らかの目標を立てて臨んでいる生徒は70%、振り返りをした生徒は53%であった。 家庭学習時間の平均は、4月が54.9時間、10月が41.5時間。 図書館を利用した学習を行った教科は2教科。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価(生徒用)「内容が分かりやすく、楽しい授業が多い」が81.8%(目標値90%)であった。3年生の数値は94.2%であったものの、1.2年生の数値が70%台であった。 (教職員)「授業改善に向けてスキル向上に努めている」が92.9%(目標値95%)であった。OJTチームプロジェクトを発展継続し、さらに相互の意識を高めていきたい。 生徒アンケート「目標設定と振り返りの習慣ができています」が53%(目標値75%)であった。目標設定をする者は70%いるが、振り返りまでする者が53%であった。 図書館を利用した学習が3教科でなされた。(目標値3教科以上) 	B	
	生活指導	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に交通立哨(教員及び交通生活委員) バイク集会を行い、バイク、自転車の違反、事故の減少に取り組む。 学校行事や特別活動を通して生徒の主体的・自発的な活動を推進する。 カウンセラーの先生と連携し、生徒・保護者の相談だけでなく、教員の研修の場としても充実させる。 教育相談において学年団、外部機関とも連携し、学校全体で共通理解を図る。SSWの力も借りて困難な案件にも積極的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的・臨時を含め学期に最低2回はバイク集会を行い違反事故を減少させる。(昨年度は(本年度は(違反:7件(自転車2、バイク5)、事故:10件(自転車3、バイク7)) 学校自己評価(保護者用)「子供は部活動、生徒会活動、ボランティア活動を通して人間的に成長している」肯定的評価95%以上。(昨年度92.1%) 年18回カウンセラーの先生との相談の実施。 教育相談だよりを毎月発行し、情報を提供する。 教育相談係会を週1回程度実施し、学年団との連絡を密にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 何かあればバイク集会を即行い、違反・事故等への注意喚起を行っている。笠岡自動車学校に協力いただき、課題を持たせたバイク講習を行っている。バイク、自転車の違反、事故の減少に取り組んでいるが、本年度はバイクの重大事故が起こってしまった。一昨年から課題である一時停止(笠神社下、笠商下三差路)違反には立哨等に対応している。 厚生委員会が環境美化に関する花壇の花植え・水やり・清掃道具の数や状態の把握・補修等熱心に活動している。 教育相談だよりを毎月発行し、情報を提供している。 教育相談係会を必要に応じて実施し、学年団との連絡を密にしている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 何かあればバイク集会を即行い、違反・事故等への注意喚起を行っている。バイク、自転車の違反、事故の減少に取り組んでいる。(本年度は(違反:7件(自転車4、バイク3)、事故:11件(自転車3、バイク8)課題である一時停止(笠神社下、笠商下三差路)違反には立哨等に対応している。) 交通生活委員の挨拶運動は本年度前向きな活動ができた。来年度以降定着するよう努力する。 厚生委員会が、花壇の花植え・水やり・清掃道具の数や状態の把握・補修等熱心に活動できている。 教育相談だよりを毎月発行し、情報を提供している。教育相談の年間回数18回(講演1回、教員研修1回含む)を実施できた。 教育相談係会を必要に応じて実施し、学年団との連絡を密にしている。保護者にも相談できる機会を提供している。 	A	
1 5つの力を意識した自主的・主体的な活動の促進	進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 自己の進路目標を明確にさせることによって、自学自習や面接練習を自主的・主体的に取り組ませる。 笠商手帳(スケジュール帳)を大いに活用させ、先を見通した自己管理能力を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 3点学習の自主的な提出率80%以上を目指す。(昨年度76%) 笠商手帳(スケジュール帳)の使用率100%をめざす(昨年度92%) 面接練習回数1人平均11回以上(昨年平均9.7回:10月現在) 	<ul style="list-style-type: none"> 笠商手帳(スケジュール帳)については、昨年度に比べ各学年で大いに活用している姿が見られた。特に3年生では面接練習を中心に活用していた。使用率については、2学期中にアンケートを実施する予定。今後も活用を促していきたい。3点学習については、1学期提出率71%(中間まで87%、期末まで64%)であった。昨年度は、1学期提出率76%(中間まで84%、期末まで66%)で、比較すると全体が下がっている。提出している人は毎日提出しているが、提出しない生徒が全く提出できていないため全体の提出率が下がっている。来年度に向けて対策を考えたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 後半は、進路先への受験が近づき、小論文やセンター試験対策などを家庭学習もでき自学自習はできていた。 笠商手帳(スケジュール帳)については、学年が上がるにつれて使用率は上がっているが全体で86%、と昨年度よりも6%も下がってしまった。回数についても1回~4回(平日)が56%、5回~9回が17%となっている。生徒に先を見通した行動ができるように、5つの力を意識させるためにも活用をさらに促したい。また、低学年の活用方法についてももう少し考える必要がある。来年度からキャリアノート等の活用がある。今の手帳との関連性を考えながら進めていきたい。 	B	
①家庭学習に裏付けられた主体的・対話的で深い学びを実現する。	総務	<ul style="list-style-type: none"> 広報委員会の活動の活性化を図る。 さまざまな広報活動に生徒を積極的に関わらせることにより生徒1人1人が商業高校生として「笠商ブランド」を大いに活用させ、先を見通した自己管理能力を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 広報委員会の活動として、昼食時間の校内放送や校内新聞コンクールなどを実施する。 オープンスクール実施後、アンケートで中学生からの肯定的な評価が90%以上。 本校の生徒に対しおぶきさんの企画・実施など中学生に向けての広報活動への積極的な参加を促し、自主的な参加が55%以上となるよう働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 広報委員会の活動として広報誌の仕分け作業をきっかけに、委員会の生徒自身に広報誌の作成を依頼した。そのための取材活動も行い、活発な委員会活動ができています。 オープンスクールを実施後の中学生の肯定的意見は98.8%。 今年度も笠レンジャーとして生徒にオープンスクールのスタッフのボランティアの呼びかけをし、割り当てのある生徒を含め全校生徒の61%が笠レンジャーとして活躍してくれた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 笠商の一番の魅力である「生徒」を前面にだす広報活動をこころがけた。今年度は今まで教員が行っていたことを思い切って生徒に任せ、それによって生徒側にも「中学生に笠商をPRする」ことを意識させることができた。それは中学生にとっても、本校にとっても良い結果となったので、来年度からも引き続き行いたい。「笠商というプライベートブランドの商品をどうやったらお客様(中学生)に知ってもらえて、たくさん買って(入学して)もらえるかを考えさせることは、商業高校生として大切なことではないか。 	A	A
②自学自習、学校行事、生徒会活動、部活動が、より自主的な取り組みになるよう工夫する。	1年団	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣を確立させ、3年後に即戦力となる人材の育成を目指す。 3年間を見通した進路指導を行う。学習習慣の確立を図る。 笠商手帳の活用促進を図る。 「笠商らしさ」にこだわり、自主活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日家庭で学習する生徒が90パーセント以上となる。 笠商手帳の利用状況が90%以上となる。 学校行事などをきっかけに自分自身の新たな可能性を発見し、集団の一員としてまたは一個人として自分がどうあるべきかを自覚できるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年生活アンケートの集計結果(10月末実施) 家庭学習に毎日取り組んでいる(100%) スケジュール帳が活用できている(82%) 体育祭や文化祭で積極的に活動し、達成感を得た(99%) どの生徒も出席状況は良好であり、毎日学校へ登校できている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 1)日頃の家庭学習について <ul style="list-style-type: none"> 90分以上(3名・3%)、60分~90分(21名・18%) 30分~60分(53名・44%)、30分未満(43名・35%) 2)スケジュール帳が活用できている(85%) 3)学年行事では積極的に活動し達成感を得た(99%) <p>どの生徒も出席状況は良好であり、落ち着いた学校生活を送ることができている。</p> <p>※学年生活アンケート(令和2年2月17~19日実施)集計結果</p>	A	
	2年団	<ul style="list-style-type: none"> 笠商手帳の活用促進を図り、自己管理能力を身に付けさせる。 ゆかりタイムやインターンシップを通して、進路に向けて主体的に学習する意識を高める。 各種委員を中心に、行事や学校生活全般において、自ら企画・運営する機会を与える。 	<ul style="list-style-type: none"> 笠商手帳の活用率9割以上。(昨年度、98%) 進路に向けて家庭学習に主体的に取り組む者が6割以上。 学校行事や生徒会活動で自主的に活動し、達成感を得た者が9割以上。 	<ul style="list-style-type: none"> 笠商手帳を活用できている(82%) 毎日家庭学習を30分以上している(60%) 体育祭や文化祭で積極的に活動し、達成感を得た(96%) ゆかりタイムやインターンシップを通して、進路を考える機会を持ち、学習に向き合っている生徒も多いが、何をしたいかわからない者もいる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 笠商手帳を活用できている(88%) 毎日家庭学習を30分以上している(63%) 体育祭や文化祭・修学旅行に主体性を持って取り組み、達成感を得た(97%) <p>ゆかりタイムやインターンシップを通して、進路を意識する機会を多く持ったことで、生徒に進路を深く考えさせることができた。多くの生徒が進路実現に向けてオープンスクールに積極的に参加したり、資格取得に励んでいる。</p>	B	
	3年団	<ul style="list-style-type: none"> コーチ制を取り入れたり、個に応じた課題を与えたりし、一人ひとりに合った細やかな指導を行う。 手帳を有効に活用させ、自己管理能力を高めさせる。 教室の環境整備やベル着始業を呼びかけ、授業を大切にする意識を持たせる。 リーダーとしての自覚を持って行事の企画や運営ができるように図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路に向けて自学自習に取り組み、その自己評価が高い者の割合が8割以上。(昨年度 進路に向けての取り組み46.3%) 手帳を使って自己管理に努めた者が9割以上。(昨年度 手帳活用率91.7%) 教室の環境整備に努め、ベル着の習慣を身に付けている者が9割以上。 行事や生徒会活動において自らの役割を自覚し、遂行できたものが9割以上。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路に向けて自学自習の取り組みが良好だった者(74%) 進路実現に向けてよく努力したと感じる者(73%) 手帳を活用して自己管理に努められた者(概ね以上60%) ベル着の習慣は身についている。教室の環境整備は行事の前後辺りは不十分なこともあったが、全体的には落ち着いた雰囲気である。 学校行事に積極的に、達成感を得られた者(概ね以上94%) 学校行事などで自己の役割を果たせたと思う者(概ね以上93%) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「努力、挑戦、自己実現」の学年目標のもと、生徒たちが自分の志望に合う進路先を選択し、努力して進路実現をした。 手帳の活用率は96%(平日1回以上開く) 授業を大切にし、秩序ある学校生活を送ることができた。最終的には120名が全ての単位を習得し、卒業できることになった。 	A	
	商業科	<ul style="list-style-type: none"> 社会の変化に対応でき、自主的な学習意欲の育成のための授業研究。 難易度が上昇した日商簿記2級などの指導力向上のため積極的な研修会参加、および伝達講習により授業の工夫改善を図る。上級資格への積極的なチャレンジと指導。(日商簿記・日商販売士・ITパスポートなど) 学年ごとに生徒の理解度を把握しながらの教科指導。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業公開(商経・簿記・情報の各分野ごとに研究授業を行い、指導力向上と意見交換を図りたい。) 日商簿記・日商販売士・ITパスポートなどの上級資格の合格者の増加 日商簿記2級 15名(平成29年度21名 平成30年度9名) ITパスポート 10名(平成29年度2名 平成30年度9名) 日商販売士 15名(平成29年度3級19人 2級1名 平成30年度3級11名 2級1名) 	<ul style="list-style-type: none"> 6月の授業公開月間では、他教科の先生方を含めた研修会となり、教科を離れた違う視点でのアドバイス等いただけ指導力向上のための意見交換ができた。 上級資格 本年度9月末現在(本格的受験は11月以降) <ul style="list-style-type: none"> 日商簿記2級 2名(2年) 直前対策模試実施(専門学校作成) ITパス 7名 応用情報 1名 販売士 2級 1名(2年) 6月受験(不合格) (今後も、上級検定に向けて努力している生徒のサポートを実施) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 他教科の先生方とグループを組み、6月・11月に実施された授業公開では、英語を商業の授業に取り込んだ授業など、刺激を受けたり、考えさせられたりした。生徒に授業の面白さを伝えていき、商業高校で学んだ知識が活かされる授業を今後も実施したい。 1月末現在、日商簿記2級4名、ITパスポート7名、応用情報1名、基本情報1名、秘書2級2名が合格している。日商簿記2級と販売士検定については、まだ、2月に実施されるため結果は出ていない。日商簿記2級の難易度がかなり上がっているが、受験希望者は少なくないため対応が難しくなってきた。2月8、9日には教員の指導者講習会も兼ね、大原簿記専門学校神戸校・京都校の先生に来ていただき2日間にわたり直前対策。 	A	

令和元年度 岡山県立笠岡商業高等学校 学校評価書

(A: 目標を上回った B: ほぼ目標どおり C: 目標を下回った)

学校経営目標	担当	具体的計画	今年度の達成基準	自己評価(中間) 達成状況	評価	自己評価(最終) 達成状況	評価	評価
2 組織的な取り組みの促進	教 務	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善や学力向上に向けて、校内での研究体制を整える。 新学習指導要領の趣旨を活かした新教育課程の研究を進める。 図書選定委員会による計画的な図書の廃棄・購入を行う。 年間の課内業務をマニュアル化し、効率化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善に向けての研修会を実施し、OJTチームによる研究体制が始動する。 新学習指導要領に基づく新教育課程を完成させる。 課内の業務を各自が記録に残す。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初に4人一組のOJTチームを編成した。6月と11月の授業公開期間では、チーム内で授業を公開し合い、授業改善に取り組んだ。 新教育課程については、学科の改編も含めて、検討中である。 課内の業務は各自が時系列で記録に残している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> OJTチームプロジェクトでは、6月と11月の授業公開期間で、チーム内で授業を公開し合い、授業改善に取り組んだ。中には、教科間連携の授業に挑戦するグループもあり、引き続き、全教員で新たな学びの形を研究していきたい。 新教育課程については、学科の改編も含めて、検討が進んでいる。 課内の業務は各自が時系列で記録に残している。特に課内スタッフの持続性が保証できない状況であることを意識して、記憶ではなく記録を重視していきたい。 	B	
	生 活 指 導	<ul style="list-style-type: none"> 1年団と連携し、部活動加入率の向上を目指す。 生徒会や部活動を中心としたボランティア活動・地域貢献活動の充実と更なる体制作りを行う。 学校行事(文化祭)で、笠岡市と連携し、復興支援活動、ボランティア活動の継続。 地域活性化への協力、カウンセラーの先生による相談日を設け、生徒・保護者の相談だけでなく、教員の研修の場として充実させる。 学年団、外部機関とも連携し、学校全体で共通理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動加入率100%(1年生)を目指す。 学校自己評価(生徒用)「地域活性化やボランティア等、地域に出向いての活動に参加している。」肯定的評価71%以上。(昨年度69.7%) 年18回カウンセラーの先生との相談の実施。 教育相談だよりを毎月発行し、情報を提供する。 教育相談係会を週1回程度実施し、学年団との連絡を密にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生の部活動加入率は100%である。いくつかの生徒が退部したが、すぐに次の部活動に加入している。 生徒主体の朝練への取り組みは、陸上・野球・バスケ男子・女子・バレー女子・柔道・テニスなどで行われている。 地域貢献活動・ボランティア活動は例年通り実施している。秋祭りへの参加については試験日程の関係で、参加を自粛している。 毎月カウンセラーの先生との相談を実施しており、順調に年間18回の教育相談会に向けて進行している。 教育相談便りを毎月発行。教育相談係会を必要な時に実施、情報共有、研修の場になっている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 1年生の部活動加入率は97.5%(未加入3名)である。いくつかの生徒が退部したが、すぐに次の部活動に加入している。 生徒主体の朝練への取り組みは、陸上・野球・バスケ男子・バスケ女子・バレー女子・柔道・テニスなどで行われている。 地域貢献活動・ボランティアは例年通り実施している。秋祭りへは不参加(試験日程の関係で)。駅前のイルミネーション作成に多くの生徒(20名)が参加できた。 毎月カウンセラーの先生との相談1回以上を実施できた。 教育相談便りを毎月発行。教育相談係会を必要な時に実施、情報共有、研修の場になっている。 	A	
	進 指 導	<ul style="list-style-type: none"> 地域の企業の訪問やOBや地域の人による講演会により、就職や進学への進路意識の高揚と進路実現に活かす。 学年団と担任・進路コーチとの連携を図り、生徒の面談を多く実施することにより、希望する進路実現を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年・2年では進路意識を高め、3年では進路の目標を決定し、進路実現に活かす。 進学では国公立と難関私立大で10名(2桁)以上を目指す。就職では、一次希望者全員の内定100%を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 1・2年生では、講演会(仕事について、インターンシップ前研修会)を実施し、進路意識を少しでも高めることができた。3年生の進路では、10月現在、国公立大12名、難関私立大3名希望している。就職希望者は一次合格率95%であった。進路決定の際、面談が大切であるので担任を中心に今後も実施していきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 進路意識を高めていくために、1・2年生については、ポータルサイトの作成の時間を利用して進路について話をしてきた。しかし、その時は意識が高まったとしても日々の活動の中で忘れてしまう傾向がある。その都度意識させることが必要と考えている。2年生から3年生に上がるタイミングで大きく進路希望が変化する。今後も面談等でしっかりと考える機会を与えていきたい。進路状況は国公立と難関私立大の人数(8名:2月現在)となった。 	B	
	総 務	<ul style="list-style-type: none"> オープンスクールの実施や広報誌の中学校への配布など、広報活動の充実を図り、笠岡の魅力を積極的に発信する。 校内の情報処理機器の効果的な運用を企画・実施する。また学校HPを利用して笠岡の魅力を外部に発信する。 渉外活動を通じて地域や保護者とのスムーズな連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価(教職員用)「保護者や地域社会へ向けての広報活動や情報提供に積極的に取り組んでいる」肯定的評価100%(昨年度100%)。 本校は情報を家庭によく提供し、学校の様子がよくわかる。(保護者用)肯定的意見83%(昨年度79.8%) 学校自己評価(保護者用)「学校のHPを見ることある」肯定的評価70%(昨年度67%) 学校自己評価(保護者用)「PTA活動が活発である」肯定的評価85%(昨年度83.8%) 	<ul style="list-style-type: none"> HP更新計画を毎月教職員に示し、積極的な更新を呼びかけている。10月までの更新回数は78回(昨年度は56回)。 39メールを活用し、登録した保護者に直接メールでお知らせをしている。 PTA活動については体育祭では飲料水の販売、文化祭ではバザーなど、連携をとりながら活動できている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> HPの更新回数は1月の時点で昨年より55%アップした。(昨年92回今年143回)校内で起こった出来事を外部に知らせるという意識が教員の間でも確立されてきた。若い教員を中心に協力体制を作ることができた。 緊急配信メール(39メール)の利用は1年生2回、2年生2回、全学年1回であった。 PTA活動は滞りなくできた。内容をスリム化するなど行事を見直し、誰もが参加しやすい活動ができるようにした。 	A	A
	1 年 団	<ul style="list-style-type: none"> 3年後を見通した進路指導を行う。進路意識調査に基づいた個別指導を早い段階から行う。 部活動や地域貢献活動を通じて多くの人とふれあい、社会性を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 7割以上の生徒が学年末までにある程度の進路先の決定が出来ている。 地域貢献活動について学年団で企画・実施を計画的に行う。 部活動によって人間関係の深化や技術の向上を体験し、充実感を覚えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年生活アンケートの集計結果(10月末実施) 進路に対する目標についてはっきりと決めている(10%)、何となく決めている(70%)、3年生になって決める(4%)、未定(16%) 地域や学校が主催するボランティア活動に参加した(100%) 部活動を通して、感動や充実感を得ている(88%) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 1) 進路に対する目標について <ul style="list-style-type: none"> はっきりと決めている(14名・11%) 何となく決めている(85名・71%) 3年生になって決める(0名)、未定(21名・18%) 2) 地域や学校が主催するボランティア活動に参加した(106名・86%) 3) 部活動を通して、感動や充実感を得ている(105名・88%) <p>※学年生活アンケート(令和2年2月17~19日実施)集計結果</p>	A	
2 年 団	<ul style="list-style-type: none"> 学年団で情報を共有し、共通理解のもと協力して指導にあたる。 意見を出し合い、効率化を図り、よりよいものを柔軟に選択する。 	<ul style="list-style-type: none"> 白板を有効に活用する。 十分な意見交換ができるように、学年会議の議題を事前に把握しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> すべきことをわかりやすくするために、白板を有効に活用できた。 学年会議の前には課題を把握し、スムーズな会議の準備ができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 白板を有効活用し、日々の連絡をスムーズに行うことができた。 学年会議の前には課題を把握し、円滑な会議の準備ができた。 	B		
3 年 団	<ul style="list-style-type: none"> 学年団で情報を共有して、指導の方向を統一する。 諸活動の意味を考え、新しい方法や効率化できるものを考え、実行する。 平素のコミュニケーションを大切にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 白板や連絡掲示板によって伝達すべき内容が明確になる。 学年会議の議題を集約し、会議を円滑に進める。 個人の得意な領域を活かし、互いに補い合って組織力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 白板は毎日、活用できた。 学年会議の前に議題を募り、会議を円滑に進められている。 コミュニケーションを取りながら相互補完ができている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 平素のコミュニケーションを大切にして、生徒の情報交換や仕事の業務連絡もスムーズにできた。 学年会議では建設的な意見や業務効率化の提案などが出て有意義なものになった。 	A		
商 業 科	<ul style="list-style-type: none"> 各種資格取得に向け計画的な勉強会の実施による部活動の活動時間の創出(的確な生徒の理解度の把握) 資格取得を活かした進路指導。 笠岡市内イベントへの積極的な参加。 小中学校への出前授業を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育園生の出前体験講座(年間1回) 中学校への出前授業の実施(商業科教員の半数以上の参加:年間8回) 笠SHOP商品開発班による地域のイベントへの参加(全教職員の参加を促す) 笠SHOPツアー班のツアー実施(集客とパブリシティ効果) 	<ul style="list-style-type: none"> 出前授業 10月末現在8校9講座 全商業科教員で対応している。 中学3年生対象:面対策、"商業を知らう"楽しいマーケティング講座 エクセル体験など出前授業実施。 中学2年生対象:マナー指導(職場体験に向けて) 幼稚園児向けパソコン教室実施。 地域貢献(笠SHOPによる地域催し物への出店参加など)土曜夜市、すみれ会夏祭り参加 いちょう祭り 参加 	B	<ul style="list-style-type: none"> 笠SHOP(商品開発班)を中心に、地域の祭りなどのイベントに参加できた。また、観光班も笠岡諸島北木島・高島を周るツアーを実施し、ツアーも参加されたお客様から好評で生徒の自主的・探究的な行動力を養った。更に、ツアー実施も4年めになるとリピーターのお客様が大変楽しみにされている声もいただいている。出前講座では、最終的に8校13講座実施することができ、中学校側の需要が多く商業を知ってもらおう。という視点も加えて。来年度も、好評いただいているマナー講座を中心に案内を考えていきたい。 	A		